



階層別救急業務研修について

	都道府県名	滋賀県
	所 属	湖南広域消防局 北消防署
	氏 名	片 山 直 広
	職名・階級	係長 ・ 消防司令補
	指導救命士養成研修 受 講 時 期	令和元年度 指導救命士養成研修 第2期 修了

1. はじめに

湖南広域消防局では、平成29年度から救急業務研修を行っています。救急業務研修とは、救急業務の高度化と病院前救護体制の充実を目的に、全救急救命士を対象として行う研修で、指導救命士が中心となり研修計画を立て、上半期、下半期の2回実施しています。多種多様な現場で適切な活動を行うためには、テキストから学ぶ知識だけでは不十分です。また、役職によって求められる能力が違うことから、令和4年度上半期では、全体の集合研修の他、階層別研修を行いましたので、その一部を紹介します。

2. 主な研修内容

(1) 場の評価訓練

「場」とは、一言で表すと「処置判断に影響を与える環境的因子」となります。救急隊は、①場・環境、②傷病者の状態、③能力の三要素で現場処置判断を決定していますが、本訓練は、症例を提示した上で、場・環境を変化させることで、処置判断にどのような影響が出るかをディベート方式で議論しました。また、主任以上と主任以下で分けて議論することで、経験年数の違いによる部分が明らかになり、双方に気づきの多い研修となりました。

(2) 処置判断能力向上訓練

救急救命士の国家試験に合格しても、即戦力になるかと言えば、そうではありません。知識はテキストに書かれたものを覚えるだけでなく、経験を融合させ、自分なりの解釈を生み出すことで、はじめて「使える知識」に変換されます。また、病院前では限られた時間で活動しなければならないため、優先順位をつける必要があります。ここは多くのテキストに書かれていない部分（厳密に言えば書けない）であり、これらの能力を養

うために、係員を対象に研修を行いました。研修はパワーポイントを使用した参加型研修として、現場で起こり得る場面をスライドに提示することで、少ない情報から何を考え、どの順番で観察・処置をするか、なぜその順番で観察、処置を行ったのかを相互に討議し、理解を深めました。

(3) 機関員のためのKYT

近年、救急救命士の資格を取得して採用されている者も多く、現場に配属されて間もなく隊員として出動しています。更に、その後も長い期間を隊員として過ごし、機関員としての経験が乏しいまま昇任し、隊長として活躍する職員も少なくありません。そのため、緊急走行する上での危険予知を経験から習得することが難しく、それを経験以外で補完することが必要です。このことから、係員を対象に、過去の事故事例や様々なシチュエーションを提示した上で、危険ポイントを全体やグループで考察し共有する参加型研修を行いました。



(4) 多数傷病者対応訓練

多数傷病者事案の発生は極めて低く、多くの隊や機関が関わることから、通常の救急事案に比べ対応が困難になる可能性が高くなります。また、発生すれば、社会的影響も大きく、消防人としての確な対応力が求められることから、実働訓練を実施しました。訓練内容を動画撮影した上で、訓練終了後に動画を確認しながら机上での検討会を行いました。動画を用いることで、客観的に物事を捉えられた事や、指揮者の考えていることが共有できました。



(5) トラブルシューティング

活動中のトラブルは普遍的に発生すること、また救急隊の主たる任務が迅速な搬送であることから、問題解決力を身に付けることは必須です。このことから、救急隊長資格を持つ職員を対象に、ワークショップ形式で行いました。研修はまず事例を提示し、その対応方法について討議します。その後、各班で対応策を共有し、トラブル対応に係る法令等を確認します。事例は、人身事故、妨害行為、虐待を含む6事案で行いました。本研修は、疑似的ではあるものの、トラブルに対して討議することで、必然と受講者に当事者意識が生まれ、これまでの知識と経験を振り返ることで解決方法をそれぞれが提示することから、受講者自身が能動的に考えるアクティブラーニングの形となったことが効果的な研修となりました。



3. 最後に

「救急救命士」と一言で言っても、資格を取得した時代も違えば、年齢、経験年数、知識量もそれぞれ違います。年齢や経験値が違えば教育の形も変わりますし、時代が進む中、求められる能力も変化します。これらの変化をいち早く捉え、時代に即した形に変換することが指導救命士には求められます。

救急隊の質向上には、全ての救急隊が指導者として、それぞれの立場で教育指導を担うことが重要になります。当局で実施した研修も、指導救命士が大筋のみを伝え、あとは役職に応じた教育担当者を指名した上で一任し、必要に応じてバックアップする形をとっています。これは、教えることで自身を教育することと、教えられたことを次に伝えるという“屋根瓦式”により教育を行うことで、職員全体のレベルアップに繋がるものと考えています。